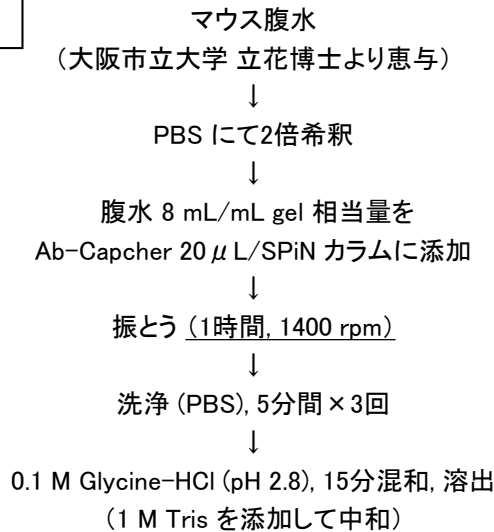


Ab-Capcher によるマウス IgM の精製

精製の流れ



マウス IgM 結合量

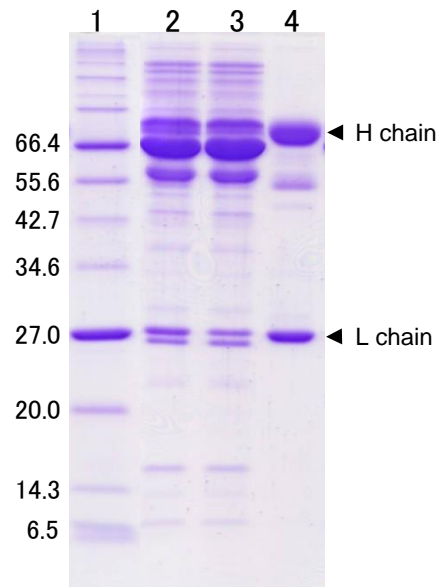
結合量 : 23 mg/mL gel

電気泳動結果

SDS-PAGE

サンプル: マウス IgM 溶出画分
ゲル: 12.5 % (Tris-Glycine)
染色: CBB

レーン 1 : MW marker
レーン 2 : 腹水
レーン 3 : Flow through
レーン 4 : Eluate



マウス腹水から Ab-Capcher を用いてマウスモノクローナル IgM の精製を検討した。収量を測定した結果、腹水 8 mL/mL gel の処理から 23 mg IgM/mL gel のマウスIgMを精製することができた。これは、マウス腹水1mLから 2.9 mg のIgMが精製できた計算になる。精製IgMの純度をSDS-PAGEにて調べた結果、IgM のHeavy chain と Light chain がメジャーバンドとして検出されたことから、IgMが高純度で精製できたと判断した。なお、50 kDa 付近のバンドは、腹水中の内因性マウスIgG由来の可能性がある。以上の結果から、Ab-Capcher はマウス IgM を高収量かつ高純度で精製できるゲル担体であるといえる。なお、マウスの別IgM種を同様に精製した結果、Ab-Capcherにて精製されないクローンのIgMが存在することがわかった。このことから、IgM精製のためには予備試験によるAb-Capcher 結合能の確認が必要である。

プロテノバ株式会社

〒769-2604
香川県東かがわ市西村1488番地1
TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703
ホームページ <http://protenova.com>